

平成28年度東部地区学力向上推進協議会 (研究発表会)



平成29年1月27日(金)
久喜市菖蒲文化会館

平成29年1月27日(金)に東部地区学力向上推進協議会を開催し、管内全小中学校の研究推進担当者と各市町教育委員会学力向上推進担当指導主事など、310名が参加しました。

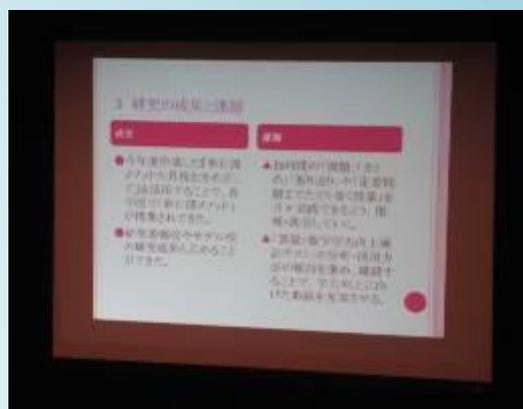
協議会の目的は、県の学力向上推進事業である「『考え、話し合い、学び合う学習』推進事業」及び「一人一人に目を向けたアドバンスド事業」の研究成果の普及を図り、東部地区の児童生徒の学力の向上に資することです。

実践発表

『考え、話し合い、学び合う学習』推進事業

春日部市教育委員会・上沖小学校・大沼中学校

1 春日部市教育委員会



(1) 研究主題

伝え合い 学び合い 育ち合い 思い合いが うれしい教室 うれしい学校づくり
～『春日部メソッド』の推進～

(2) 研究の実践(抜粋)

研修の委嘱と春日部メソッドの推進

➢市内小・中学校に研究を委嘱

平成28年度

教科等の研究委嘱19校

研究モデル校5校

そのうち13校が研究発表会を開催

教職員提案制度

➢市内小・中学校教職員による特色ある教育施策の提案を公募し、優れたものを表彰

➢優れた提案は、春日部メソッド実践発表会(春日部市教職員提案制度に係る提案発表会)にて市内教職員へ周知

2 上沖小学校 大沼中学校



(1) 研究主題

上沖小学校 「一人一人を確実に伸ばす授業の創造」
～確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする児童の育成～

大沼中学校 「確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする生徒の育成」
～考え、話し合い、学び合う学習をとおして～

(2) 研究の実践（抜粋）

考え、話し合い、学び合う学習過程

- 4つの過程を意識
「つかむ・見通す」「個人で考える」
「話し合う、学び合う」「まとめる・ふりかえる」
- 自分の考えをもつこと、友達とのつながり多面的で深い理解に到達すること、習得した知識・技能を活用・発揮する場面において子供の変容を見取り、評価する。
- 小学校の授業の流れが中学校の授業に継承されている

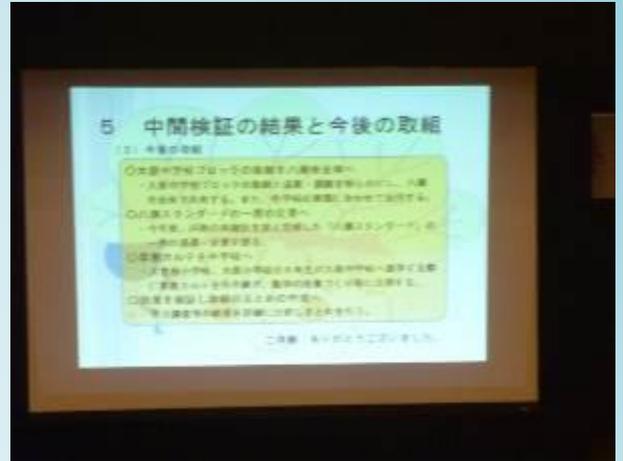
思考ツールを活用した授業

- ツールの適切な使用場面を見極めること、より有効なツールは選択することが重要
- 思考ツールや付箋、ホワイトボード等の活用による「主体的な学び」、「対話的な学び」、可視化による思考の整理、対話を通じた新たな気付きなどの「深い学び」を大切にする。

一人一人に目を向けたアドバンスド事業

八潮市教育委員会・大曾根小学校

1 八潮市教育委員会



(1) 委託事業内容

「一人一人に目を向けたアドバンスド事業」に係る本市の取組
～学びを結ぶ算数・数学の学力向上を目指して～

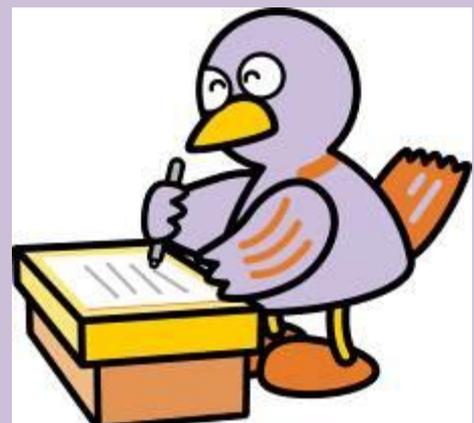
(2) 研究の実践（抜粋）

施設分離型小中一貫教育の推進

- 小中一貫教育導入から11年目を迎え、これまで学力向上のみならず生徒指導上の課題についても着実に改善
- 大曾根小学校学校から大原中学校ブロックへ、大原中学校ブロックから八潮市全体へ本事業を推進・拡大

八潮スタンダードの活用

- 全教科で活用
- アクティブ・ラーニングの視点を意識し、端的な導入、子供の活動（考える・学び合い、習熟を図る）時間の確保等、授業改善のポイントをおさえる。



2 大曾根小学校



(1) 研究主題

「一人一人に目を向けた算数の学力向上推進事業」
～児童一人一人の意欲を高め、学力の向上を図る授業の工夫・改善～

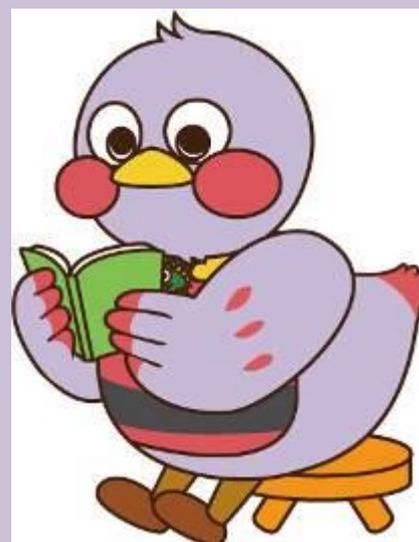
(2) 研究の実践（抜粋）

ステップアップタイムの実施

- 学年の実態に応じ、図や数直線で表現する問題の工夫
- 基礎的・基本的な知識と技能の定着（図、式、言葉に関連付けた数学的な見方・考え方）

算数カルテの活用

- 「どの問題ができて、どの問題ができないか」、「つまずきの傾向はあるか」などを児童自身も教師も同時に把握
- 検証プリント、ミニプリントの活用によるつまずきの解消
- 同じ中学校区の大原小学校においても活用、2つの小学校から大原中学校にカルテを送付、中学校の数学科教員も授業に活用



質疑応答



指導講評

「主体的・対話的で
深い学び」の充実に向けて

県教育局東部教育事務所
学力向上推進担当



講演

演題「学力向上に向けた
効果的な取組事例と
校内研修推進担当者の役割」

講師 県教育局市町村支援部
義務教育指導課
栃木 法雄 指導主事

